大学院心理学研究科　主要科目のねらい、特色、内容

【修士課程】

臨床心理学特論Ⅰ
【ねらい】 臨床心理学、心理療法の分野のうち、特に「認知行動療法」について扱う。心理療法・カウンセリングに必要とされる基本的な知識や考え方を身につけることができるようになる。特に、大人に対する認知行動療法の基本的な枠組みを理解し、いくつかの介入技法を実践できるようになる。 【特色】 実践的、体験的に学ぶ。ひとつひとつの介入技法においては、技法の理論的背景、作用機序、なぜその技法を使用するのかを踏まえた講義、ロールプレイなどによる実習を行う。 【内容】 認知行動療法の歴史、前提、基本的な枠組み等を講義する。また、代表的な介入技法について、講義および実践を行う。なお、認知行動療法はさまざまな年代層や問題に対応しているが、この科目では基本的な理解を得るために、まずは大人のうつや不安を対象とした認知行動療法を例に進める。

臨床心理学特論Ⅱ
【ねらい】 臨床心理学、心理療法の諸分野のうち、特に「動機づけ面接」について扱う。 【特色】 心理療法・カウンセリングに必要とされる基本的な知識や考え方、特に、動機づけ面接の基礎的内容を身につけることができるようになる。 【内容】 動機づけ面接の基礎について、エクササイズを通して学ぶ。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
【ねらい】 臨床心理学的実践の内，主に臨床心理学的面接に関する知識や技能を習得することを目的とする。 心理支援に必要とされる理論を学び、その実践技能を習得できるようになる。 【特色】 心理面接の知識と技能の習得を目指すが、その際に様々な立場のそれらを比較検討しながら、しかもロールプレイによる実習を交えて習得できるように工夫された授業を行う。 【内容】 力動論、行動論・認知論、そのほかの心理療法について、それぞれの理論を学び、ロールプレイを用いて実際の方法について学習する。また、さまざまな分野での心理支援の実際、および心理支援を要する者への支援方法の選択についても学習する。

臨床心理面接特論Ⅱ
【ねらい】 心理臨床実践において必須とされる理論と面接技術の一端を習得することを目的とする。授業者の公認心理師としての実践内容を授業で解説し、さらにグループディスカッションやロールプレイ等の疑似体験を通じ実践の知を得られるようにする。 【特色】 臨床面接に必要とされる知識、技法について文献購読、アクティブラーニングなどを通じて学ぶ。具体的には、臨床心理面接についての基本的なルールやプロセス、心理アセスメント、倫理の学修、関連する法規、連携先諸施設の概要などについてディスカッションやロールプレイ等を通じ体験的に学ぶ。 【内容】 本講義は面接の基本となる、自己分析、非言語的情報の読み取り、主訴の把握、等のテーマを紹介し、討議、グループワーク、ロールプレイを通して、面接で必要とされる技術に関して解説する。

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
【ねらい】 本授業では、臨床心理査定の具体的な内容として認知機能検査および知能検査をとりあげ、臨床現場における心理査定の有効な使い方を学ぶことを目的とする。 臨床心理学的アセスメントでしばしば用いられているものや著明なものについて、理論的・体験的・実際的な経験を積み、実際に使用することができる、あるいはその準備までの段階に至ることができる。 【特色】 本授業では、検査を実施する際のクライエントとの関係づくりや、検査中の行動観察のポイント、円滑に検査を実施するために工夫できることなど、実践的に必要となる知識、技術の習得を学習課題とする点が特色である。 【内容】 本講では、臨床心理査定法の理論と実際について学習する。心理査定の位置づけや施行時の心構えについて学習した後、各査定法の概要、実施方法および解釈法や報告書作成の方法を体験的に学ぶ。

臨床心理査定演習Ⅱ
【ねらい】 本講義では，臨床心理学的実践の内，主に臨床心理学的査定に関する知識や技能を習得することを目的とする。現在の臨床心理学的アセスメント実践においてしばしば用いられているものや著明なものについて，理論的・体験的・実際的な経験を積み，実際に使用できる，あるいはその準備ができている段階に至ることができる。 【特色】 本講では，上記講義の習得を前提として，知能検査に関する報告書の作成方法や留意点，さらにはより報告書作成が難しい投影法について学ぶなど，実際の臨床業務で必要となる技能や知識の習得を目指すことが特色である。 【内容】 本講では、臨床心理査定法の理論と実際について学習する。心理査定の位置づけや施行時の心構えについて学習した後、各査定法の概要、実施方法および解釈法や報告書作成の方法を体験的に学ぶ。

臨床心理基礎実習Ⅰ

【ねらい】
この授業では、心理臨床家の活動について実践的に学ぶことを目的とする。
心理臨床家としての実践的資質を培う。

【特色】
本授業では、複数の事例の見立てと処遇を体験的に学習することで、臨床家として必要なクライエントの理解を深めることが特色である。

【内容】
受理会議及びケースカンファレンスに参加し、実際の事例に関する見立てと処遇の検討を行う。グループディスカッションでの発言や発表者への質問を通して、理解を深め、事例検討に必要な視点を養う。

臨床心理基礎実習Ⅱ

【ねらい】
この科目は、より実践に近い形の心理面接を行うことで、これまでに「臨床心理基礎実習Ⅰ」などで学習した内容を、さらに実践で使えるようになることを目指す。

【特色】
講義内で行う短時間、１回限りのロールプレイの経験を踏まえ、継続した面接へ発展する科目。
継続することによる「展開」の体験や、クライアントがどんな体験をしているかを知ることができる。

【内容】
受講者同士でカウンセラー、クライアントとなり、継続した心理面接を行う。
１回30分の面接を５回継続した面接を行う。面接の録画の一部を受講者で検討する。

臨床心理実習Ⅰ

【ねらい】
臨床心理士（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会認定資格）資格要件の授業内容とする。
この授業では、心理臨床家の活動について実践的に学ぶことを目的とする。心理臨床家としての実践的資質を培うことができるようになる。

【特色】
①心理臨床家の実践の場を経験する
②学内外実習施設で関わる要心理支援者やスタッフと良好な人間関係を築く力やコミュニケーションスキルを養う
③心理臨床に関する倫理規定や守秘義務について理解し、遵守する
④学内外の実習担当教員（スーパーバイザー；以下SV教員）の指導を受け、自身の技能向上を図る

【内容】
大学院心理・教育センターの活動に主体に関わり、センター受付を含む運営業務の補助，受理面接への陪席，ケース担当，受理・事例会議での発表等を行う。また，大学院指定の学外施設において，心理支援に関する実習を行う。
以上の学内外実習において，SV教員の定期的なスーパービジョンを受けることとする。

臨床心理実習Ⅱ
【ねらい】 臨床心理士（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会認定資格）資格要件の授業内容とする。 この授業では、心理臨床家の活動について実践的に学ぶことを目的とする。心理臨床家としての実践的資質を培うことができるようになる。 【特色】 ①心理臨床家の実践の場を経験する ②学内外実習施設で関わる要心理支援者やスタッフと良好な人間関係を築く力やコミュニケーションスキルを養う ③心理臨床に関する倫理規定や守秘義務について理解し、遵守する ④学内外の実習担当教員（スーパーバイザー；以下 SV 教員）の指導を受け、自身の技能向上を図る 【内容】 大学院心理・教育センターの活動に主体に関わり、センター受付を含む運営業務の補助，受理面接への陪席，ケース担当，受理・事例会議での発表等を行う。また，大学院指定の学外施設において，心理支援に関する実習を行う。 以上の学内外実習において，SV 教員の定期的なスーパービジョンを受けることとする。

心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・A
【ねらい】 諸領域にまたがる心理職の国家資格である公認心理師資格要件の授業内容とする。 この授業では、保健・医療，福祉，教育，司法・犯罪、産業・労働の分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の修得を目的とする。予防や多職種連携を含め公認心理師としての援助の実践的資質を培うことができるようになる。 【特色】 ①心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解等について実践的に学ぶ。 ②実習施設の実習指導者、および巡回指導教員の指導を受け実践的資質を培う。 【内容】 ＜学外実習＞ 公認心理師を目指す者として、大学院の指定基準を満たす実習機関で、原則として３～５領域にまたがり３施設以上で実習を行う（見学実習も含む）。 ＜学内実習＞ 公認心理師を目指す者として、大学院心理・教育相談センターの活動に主体的に関わるための基礎を身につける。諸領域での活動に求められる基礎的知識の習得に加え、ミニカウンセリングを用いた巡回指導による傾聴訓練を行う。